

県民負担増、補助金縮減・廃止一決算審議が行われます

県民へ「改革」の痛み



こんにちは

渡辺ゆり子

2008年11月2日
第50号

発行
日本共産党県議会議員
渡辺ゆり子

〈連絡先〉
日本共産党県議団執務室
電話 023-630-3241
自宅・山形市青田2-10-5
電話 023-642-2365

問われる斎藤県政のあり方

9月定例会議会は10月10日閉会しました。ところが、平成19年度決算が上程され、11月に審議が行われます。県民にとっての19年度決算の特徴は、国の税源移譲による個人県民税の増、みどり環境税の導入による負担増、また、景気や雇用が停滞するなかで、「改革深化」として各種補助金の縮減や廃止が断行され、まさに強い痛みを感じるものだった。その痛みに対する県民の反発や運動により、補助金が復活したり、縮減が一部凍結となるものもあつた。斎藤知事の「改革」は当初の思い通りにはなっていない。

来年度予算編成に向けて、知事は初めて「県民の安心確保」が土台として、福祉医療、子育て支援や生活安全対策の充実に着目している。一方で、笹山一夫県議団長は、「平成21年度の県民の安心確保は、痛みを伴ったこれまでの知事の「改革」を反省したため」と斎藤知事の姿勢を質しました。知事は、「改革」について、「理解と協力をいただかない場合はならないものも少なからずある」とも事実と答えながら、来年度の方向性については、「社会経済動向の変化」「医療・社会保障の見直しや地震災害の発生など様々な不安要素が生じている」と、足元の課題に対応するとし、反省

比例1議席は東北の“暮らしの命綱”

志位委員長の訴えに声援



街頭から訴える(左から)高橋衆院議員、志位委員長、佐藤比例候補、ゆり子県議。10月26日、山形駅前

山形駅前では10月26日、1,200人近い人たちが集まり、ベテスタリアンデッキにまであふれ、日本共産党

の訴えに耳を傾けました。冒頭に、私も一言あいさつしました。佐藤まさゆき比例予定候補(区選管)

「日本共産党は、東北の命綱・高橋ちづ子議員に続いて登場した志位和夫委員長は、大きく伸ばしてちづ子さんの再選をなんとかも果たさせていきたい。そして佐藤まさゆきさんを国に送り出したい。会に送り出した方がいい」との訴えに、ひととき大きな共感の声や拍手があまりました。

立止まって聞く者医療や農業について、政策も含めて縦横に語りなす。何度も拍手や、「そうだ、の合いの手が入りましたが、企業

の弁はありませんでした。国の悪政がくらしや地域経済に打撃を与えているもとの、斎藤県政のこれまでであり方が問われていました。

日本共産党県議団は、なほ一層、県民の声を代弁して奮闘する決意です。

県議会

11月の予定

- 5日(水)～6日(木) 決算特別委員会各分科会
決算特別委員会
期会中の委員会審議
- 7日(金) 決算特別委員会
各常任委員会
- 11日(火) 各特別委員会
- 12日(水) 各特別委員会



(写真上)後期高齢者医療制度廃止を求め署名行動=10月15日、山形市七日町
(写真右)年金者組合の県会議に出席=10月16日、県庁



ゆり子の視点

県内私学の生徒・父母・教員による実行委員会が主催した私学フェスティバルに参加しました(10/26)。「私学助成の大幅増額」と、「私学教育の理解」を県民にアピールするため開催されているもので、第31回を迎えています。保護者からは、「子どもが私立高校入りの時に、自分分はリストアップした」という状況は自分だけではないと思っ、みんな子どもを高校へやるために必死で働いていると訴えがありました。高校生からは、自分を愛した私学の良さ、経済的理由で退学していた友人への思いを群舞「魂・SOUL」に表現した私学助成増額を求めるアピールが行われました。高校進学が当たり前の時代、教育費の無償化を求める声があり、以前より強くよびかけています。毎年、署名をよびかけ、運動を広げてきた私学助成増額の取り組みは、県民をも動かし始めています。「私もともにがんばりたい」と、県議の一人として連帯の十丸を送りました。